

『ふおれすと鉱山』と
ネイチャーガイド

昨年自分にとってはさしたる変化はなく、いつもと同じようなことの繰り返しでした。それが幸せなんだと思っています。

さて、わが『モモンガくらぶ』ですが、多くの皆さまのお世話になりながら、おかげさまでほぼ予定通りの事業を展開し、『ふおれすと鉱山』との連携プレイもますます強くなってきました。

昨年は、『モモンガくらぶ』にとって一つの大きな事業を行いました。それはガイド養成講座です。事業名は『コーザンネイチャーガイド (KONG) 養成講座』です。最終的には11人の皆さんがガイドとして認定され、鉱山地区をフイ



▲コーザンネイチャーガイド養成講座

ールドにして活躍しています。

『ふおれすと鉱山』との関わりの中では、ガイドという分野は大切なものです。川や森、そしてそこにすむものたちを媒体に、訪れる皆さんに楽しんでいただくのもとより、それらから発信される情報を正しく伝えていく『仕事』だからなのです。人間が決して創ることのできない『川や森』についても謙虚で優しくありたい。創ることではなく壊さないことの大切さを伝えていきたいと考えています。

『ふおれすと鉱山』が皆さまにとって憩いの場となり、ここへ来ると、時が『ゆつたり』と流れていることを感じていただきたいです。

(新生町／松原條一さん・登別市ネイチャーセンター『ふおれすと鉱山』支援ボランティア組織『モモンガくらぶ』会長)

私とレクリエーションダンス

2004年は異変の年でした。

春はいつまでも肌寒く、夏は猛暑続きで大雨や台風が次々と襲い、最後は新潟中越地震が発生して人々を苦しめ、テレビを見るたびに胸が痛くなりました。

そして私にもストレスがたまる寂しい年でした。

平成元年の4月から昨年の2月まで、月4回市民会館でレクリエーションダンスを唯一の楽しみに踊っていたのです。たくさんのお友だちもでき、第二の青春が訪れたようでした。踊りの音楽も演歌や童謡、民謡、ポップスと幅広く、かなりの曲に接することができました。なかなか思うように踊れないときなど、指導の先生は「廊下にてたら忘れていいのよ。この次また教えますから」と優しくおっしゃってくださるし、役員の皆さまも笑顔で一緒に踊ってくれます。

そんな大好きなレクリエーションダンスを体調を崩して踊れなくなったのです。健康管理がゆき届かなかつたのと、特別変化がなかったので過信していたのです。家にばかりいるとストレスがたまって、あちこちと体の調子が狂い、病院通いが仕事になってしまいました。

ようやく最近になり、少しずつ体力も回復してきました。早く元通りになって、大勢の仲間と心ゆくまでレクリエーションダンスを踊りたい気持ちでいっぱいです。

2005年は、私の千支の酉なので、頑張るつもりです。そして台風や地震などの天災が減少して、皆が普通の生活を営めるような平穏な年であるように願っています。

(幌別町／池田悦子さん)

5

月



▲わんぱくサムライ体験 (5月22日)



▲ふおれすと鉱山『GWスペシャルウィーク』(5月1日～5日)

2004年を振り返って⑤